厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
分担研究年度終了報告書

カンナビノイド医薬品とカンナビノイド製品の薬事監視 24CA2012

リハビリテーション医学とカンナビノイド
―文献調査―

研究分担者：　菅 俊光 関西医科大学 リハビリテーション医学講座　診療教授

研究協力者：　長田 優香 田園調布長田整形外科

研究要旨
本研究では、整形外科・リハビリテーション医学分野において、カンナビジオールをはじめとする大麻草に特有の成分であるカンナビノイドの海外での使用状況を文献的に調査する。
海外では、整形外科・リハビリテーション医学分野においては、カンナビノイド医薬品とカンナビノイド製品は上位運動ニューロン障害の１症候である痙縮に対して使用されていた。主な疾患としては、多発性硬化症（MS）、脳卒中、脊髄損傷があげられる。MSにおける患者報告の痙縮と中枢性疼痛の軽減が報告されているが、有害事象による神経系および精神障害などを増加させる可能性についても言及されている。
カンナビノイド医薬品とカンナビノイド製品にMSによる痙縮による筋緊張や疼痛、中枢性疼痛の緩和効果を認めれば、より患者数の多い脳卒中や脊髄損傷においても同様の効果が十分に期待される。

A. 研究目的
整形外科・リハビリテーション医学分野において、カンナビジオールをはじめとする大麻草に特有の成分であるカンナビノイドの海外での使用状況を文献的に調査する。

B. 研究方法
分担研究者である菅　俊光（関西医科大学総合医療センター）と研究協力者である長田優香（田園調布長田整形外科）で、整形外科・リハビリテーション
医学分野における文献を渉猟した。

（倫理面への配慮）
文献調査のため不要である。

C. 研究結果
海外では、整形外科・リハビリテーション医学分野においては、カンナビノイド医薬品とカンナビノイド製品は上位運動ニューロン障害の１症候である痙縮に対して使用されていた。主な疾患としては、多発性硬化症（MS）、脳卒中、脊髄損傷があげられる。MSにおける患者報告の痙縮と中枢性疼痛の軽減が報告されているが、有害事象による神経系および精神障害などを増加させる可能性についても言及されている。

D. 考察
MSにおいては、カンナビノイド医薬品とカンナビイド製品は一部の国において医薬品と認可され、病因究明や治療においても重要な役割を果たす可能性があることが示唆されている。

E. 結論
カンナビノイド医薬品とカンナビノイド製品は規模な二重盲検試験や至適な用量、使用方法、化合物の組成や濃度の設定などの研究を行う必要がある。カンナビノイド医薬品とカンナビノイド製品にMSによる痙縮による筋緊張や疼痛、中枢性疼痛の緩和効果を認めれば、より患者数の多い脳卒中や脊髄損傷においても同様の効果が十分に期待される。

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし